

# アジア・キリスト教・多元性

## 第 14 号

---

### 特集 「漢字文化圏における聖書翻訳と信仰の表現」

まえがき ..... 長澤志穂 (01)

朝鮮半島における聖書翻訳再考察——キリスト教受容者の立場を中心に——  
..... 洪伊杓 (03)

中国人キリスト者の「訳語論争」への参加 ..... 金香花 (21)

日本正教会訳聖書における「神」の漢語としての奥行き  
——中井木菟麻呂の信仰と思想を手がかりに—— ..... 長澤志穂 (35)

高橋五郎訳『聖福音書』をめぐって  
——明治のカトリック教会についての一考察—— ..... 日沖直子 (55)

コメント ..... 岩野祐介 (73)

### 論文

武断統治期(1910-1919)における韓国キリスト者の「内地=日本」認識  
..... 洪伊杓 (77)

内村鑑三の三位一体論 ..... 渡部和隆 (101)

### 研究ノート

日本キリスト教研究と解放の問い ..... 芦名定道 (121)

### 随想

A・ヴァリニャーノの適応主義の現代的意義 ..... 高橋勝幸 (133)

あとがき ..... 芦名定道 (149)

---

2016年3月

「アジア・キリスト・多元性」研究会

研究会の活動内容 (2015 年度)

第 141 回 (2015 年 4 月 30 日)

〔合評会〕

- ・山本美紀「岡山孤児院音楽隊を巡る音楽環境と、近代日本におけるキリスト教Band文化の萌芽をめぐって」(論評者：洪 伊杓)
- ・狭間芳樹「A・ヴァリニャーノによる仏教語使用の企図——『日本史』(1601)を手がかりに——」(論評者：高橋勝幸)

第 142 回 (2015 年 5 月 22 日)

- ・鄭玗汀「内村鑑三の思想形成と『地理学考』」

第 143 回 (2015 年 7 月 6 日)

- ・役重善洋「内村鑑三の再臨信仰と民族——ロマ書解釈を中心に——」

第 144 回 (2015 年 10 月 31 日)

- ・2015 年度総会

第 145 回 (2015 年 11 月 13 日)

- ・スティグ・リンドバーク「キリスト者賀川豊彦の救済観」

第 146 回 (2015 年 12 月 11 日)

- ・洪 伊杓「武断統治期(1910-1919)における韓国キリスト者の〈内地=日本〉認識」

第 147 回 (2016 年 1 月 29 日)

- ・芦名定道「日本キリスト教研究と解放の問い」

第 148 回 (2016 年 2 月 26 日)

- ・渡部和隆「内村鑑三の三位一体論」
- ・高橋勝幸「A・ヴァリニャーノの適応主義の現代的意義」
- ・2015 年度総会

◆『アジア・キリスト教・多元性』第14号をお届けいたします。

本研究雑誌は、「アジア・キリスト教・多元性」研究会の研究活動報告論文集として刊行され、本号で14号を迎えました。今回も、執筆者の方々はもちろん、研究会での議論に参加いただいたメンバーの方々、特に、編集担当者に全面的な協力をいただくことによって、無事に刊行することができました。この場をお借りして、お礼を申し上げたいと思います。

本研究論文集は創刊号より、電子ジャーナルをめざして刊行されてきましたが、13号までは、必要部数に限り、冊子体での刊行も行ってきました。しかし、本号からは冊子体なしの完全な電子ジャーナルとなり、研究会のホームページにおける公開のみということになります。なお、2008年度からは、京都大学学術情報リポジトリにも、登録されておりますが、その点は変わりありません。

◆2016年4月の研究会では、例年通りこの14号の合評会を行います。いくつかの論文を取りあげ議論を行う予定ですが、研究会メンバーのみなさまには、具体的な日時や内容について後日ご案内いたします。

◆2015年度の研究会の活動の詳細については、本号の「研究会の活動内容（2015年度）」あるいは研究会のホームページに記載された通りですが、毎月ほぼ1回程度の研究発表会が開催され、活発な討論が行われました。2015年度も、特に統一テーマは設定しませんでした。明治日本のキリスト教に関する研究やキリシタン研究など、いくつかの研究領域を中心に、研究発表が行われました。この数年来、本研究会の研究成果を研究論集という形で出版する可能性を模索してきましたが、具体的な内容を詰めるに至っておりません。しかし、本号には、本研究メンバーを含む方々によって行われた、日本宗教学会・2015年度・学術大会パネル企画「漢字文化圏における聖書翻訳と信仰の表現」（代表者：長澤志穂）における研究発表を特集として収録できました。こうした特集企画は、今後も試みてゆきたいと思います。

◆2015年度は、本研究会にとって大きな転換期となりました。それは、本研究会が当初より目指してきた目標の実現ということではありますが、2度にわたる総会において、研究会名称変更、月例の研究発表会の会場変更、研究会役員などに関わる内規の整備が行われ、また新しいホームページへの移行が実施されました。2016年度4月からは、本研究会の新たな出発となります。しかし、月1回の研究発表会の実施や年度末の報告論集刊行という点については、変更することなく継続されますので、これまで同様に、研究会活動への積極的な参加をお願いいたします。

◆研究会メンバーの近況をご報告いたします。藤原佐和子さんは、2016年4月より、東北学院大学文学部（総合人文学科）に赴任されることになりました。京都を離れ仙台へと舞台を移しての研究生活となりますが、これまで以上のご活躍をお祈りいたします。

◆今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力を賜りますよう、よろしく、お願い申し上げます。

2016年3月

研究会・研究活動担当

芦名 定道

# ASIA CHRISTIANITY DIVERSITY

## XIV

### CONTENTS

<b>JARS Panel Report</b> "Bible Translations and Expressions of Faith in the Hanzi Cultural Sphere"	
Introduction .....	NAGASAWA Shiho (01)
A Reconsideration of Bible Translation in Korea with a Focus on the Standpoint of Local Converts .....	HONG Yi Pyo (03)
Chinese Christians' Participation in Scriptural Localization .....	JIN Xianghua (21)
The Semantic Implications of the Japanese Orthodox Church's Borrowing of the Chinese Term Shen ("God" or "Spirit"): an Examination Based on the Thought and Faith of Nakai Tsugumaro .....	NAGASAWA Shiho (35)
Takahashi Gorō's Translation of the Four Gospels: A Study of the Catholic Church in Meiji Japan .....	HIOKI Naoko (55)
Comments .....	IWANO Yusuke (73)
<b>Articles</b>	
Korean Christians' Acceptance of Japan as "Naichi (内地)" during the Military Rule Period (1910-1919) of Japanese Colonialism .....	HONG Yi Pyo (77)
Kanzō Uchimura's Idea of the Trinity .....	WATANABE Kazutaka (101)
<b>Notes</b>	
Christian Studies in Japan and the Question of Liberation .....	ASHINA Sadamichi (121)
The Modern Significance of A. Valignano's "Adaptationism" ...	TAKAHASHI Katsuyuki (133)
Postscript .....	(149)

March, 2016

Study Group for Christianity and Diversity in Asia  
Kyoto Japan

ISSN 2432-1796